

未来 ひだか

みらくる

2018年4月

日高農業改良普及センター



第3回 2月5日開催 ふれあいセンターびらとりにて



女性のためのトマト学習会開催

日高農業改良普及センター日高西部支所

平成29年11月から普及センターでは、トマト栽培の基礎講習会「女性のためのトマト学習会」を開催しています。

「トマトの基本技術を教えて欲しい」「普段の講習会では質問しずらくて・・・」など女性農業者からの一言から、日々の疑問に答える基礎講習会を開催することになりました。普及センターが企画し、JAびらとり・平取町の協力の下、育苗から収穫までの栽培管理や病害虫について講習しました。出席者からは写真や絵を使用した説明が「わかりやすい」「繰り返し続けて欲しい」「一から学べて勉強になった」と好評でした。

平成30年度は新たに現地研修も取り入れ、開催を予定しています。

管理作業は女性が担うことが多く、女性農業者の基礎技術向上でトマトの生産性がアップすることが期待されます。



定植後の管理について



育苗管理について



～ 新技術・地域の話題を紹介 ～

牧草地における新技術の紹介

～草地における難防除雑草「ハルガヤ」の生育特性と防除対策～

「ハルガヤ」は近年新たな難防除雑草として、草地への侵入が増えてきています。平成29年普及奨励等新技術の成績概要として「ハルガヤ」対策が発表されましたので、その内容を紹介します（詳細は普及センターまでお問い合わせ下さい）。

ハルガヤの特徴

- 5月始めより出穂し、種子生産時期は6月始めで、種子量は約10万粒/㎡と多い。
- 種子生産前に刈取っても刈取り後40日で種子を生産し、土中1～5cm深の種子は2～3年掛けて出芽し、長期間死滅しない。
- アレロパシー（他種の生育を阻害する）物質により、チモシーを衰退させる。



ハルガヤの占有草地



ハルガヤの穂

ハルガヤ低減対策

- グリホサート系除草剤の体系処理による草地更新(既存植生処理だけでは効果が低い)
- ①前年秋～早春：ハルガヤが種子生産する前に既存植生に除草剤を処理する
- ②6月下旬：耕起・整地後、実生を発生させる
- ③8月：除草剤を処理後、は種する
 - ※前年秋に除草剤を処理し、翌春ハルガヤが出穂した場合、種子発生前にaかbを選択
 - a 5月に除草剤を処理し②③を実施
 - b 5月下旬に耕起・整地し③を実施
- 更新草種はオーチャードグラス(競合に強い)
- 飼料用とうもろこしを数年栽培する（除草剤はアトラジン製剤を使用）
- 適正な施肥管理を行う

次代を担う青年農業者ゼミナール 第2期生の活動情報を報告します！

次代を担う青年農業者ゼミナールは、現在、管内から集まった10名で第2期生として活動しています。これまでに座学研修、現地視察研修、交流会等を行ってきました。

座学研修では、「地域を変える覚悟」をテーマに新冠町観光プロデューサーの谷本晃一氏が講演、普及センターからは「今後の日高農業に何が必要か？」をテーマにワークショップを行いました。また、2回目の座学研修では、日高町の指導農業士である春木正友氏から自身のこれまでの歩みとゼミナール生に対するメッセージを頂きました。その後、参加したゼミ生が「今後の取り組み・実践活動」についてディスカッションを行い、2年目のゼミは「農業のPR活動」にも取り組んでみてはどうか？との意見もあがりました。

現地視察では新ひだか町三石の「(株)まつもと牧場」と浦河町の「濱田農園」を視察、参加者の生き生きとした顔が印象的でした。残り1年、活動は今後も続きます。



新冠町観光プロデューサーの講演



まつもと牧場視察

～ 地域 の 話題 を 紹 介 ～

静内地区で日胆ゆめぴりかコンテスト金賞

北海道優良米生産出荷共励会最優秀賞 ダブル受賞

昨年11月13日に、日胆会館で開催された、日胆ゆめぴりかコンテストで、JAしずないが金賞を受賞しました。過去最多となる10JAのゆめぴりかが出品され、日本料理店の料理長など8名により審査が行われました。味や香り、粘りなど6項目からなる審査の結果「全体的なレベルが高く、甲乙つけがたかったが、白さ、つや、甘みのバランスが良かった」と評価を頂きました。

また、3月2日にホテルモントレエーデルホフ札幌で開催された、第55回北海道優良米生産出荷共励会でも、移植栽培部門、生産グループの部、第1部（うるち米20ha以上）で、静内稲作振興会クリーン部会が最優秀賞を受賞しました。土づくりや収量・品質の安定性、特別栽培などクリーン農業の取り組み、グループとしての目標達成に向けた統一性など、7項目に渡って事前に書類審査が行われ当日の表彰に至りました。基本技術を励行して、軽種馬堆肥の活用による環境保全型農業などに取り組み、低タンパクで良質な米の生産と、万馬券ブランドによる高付加価値販売などが評価されたものです。

地域では、今回のダブル受賞について、「長年に渡って取り組んできた努力が認められ、今後の米づくりの大きな一歩となる」と喜んでいます。



優良米生産出荷共励会最優秀賞



日胆ゆめぴりかコンテスト金賞

新たに就任された指導農業士・農業士を紹介します！

～平成29年度は お二人とも新規参入就農者です～

【指導農業士 平取町振内 渡邊 邦衡 氏】

経営形態：施設園芸（トマト）

H20新規就農。地域とのつながりを大切に、子供関係・自治会・生産部会・新規就農支援等の役を担っています。

新規就農研修生に、農業のすばらしさや地域に溶け込む大切さを伝えています。



農村ゼミで講演

【農業士 浦河町 吉田 隆 氏】

経営形態：施設園芸（夏秋どりいちご）

H24年新規就農。気象変動に適應する卓越した技術で、常に全国トップクラスの収量・品質を実現。就農研修生を受入れ、育成・指導されています。



いちご収穫中

最近、ニュースや新聞で見る「GAP」・・・ご存じですか？

GAPとは「Good Agricultural Practice」の略で、「良い農業のやり方」という意味です。「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権保護」のリスクを明確化し、そのリスクへの管理対策を実践→点検→改善を行い「永続的に農業をする」ことが、GAP最大の目的です。

日高管内では、JAびらとりトマト胡瓜部会が、JA独自のGAPに取り組んでいます。

昨年12月に新ひだか町公民館で「GAP導入セミナーin日高」を開催、「GAPとは何か」「GAPを巡る情勢」「取組事例（JAとうや湖・JAびらとり）」の研修会を行い、約60名が参加しました。現在、参加された1法人がJGAP認証取得に向けて取り組みを始めました。

平成30年度から環境保全型農業直接支払交付金の交付要件が「国際水準GAPに取り組むこと」に変わりました。農水省も「GAPの実施」を進めています。

普及センターもGAPの取り組みを支援しています。

関心ある方は、是非、普及センターまでご連絡下さい。



GAP導入セミナーin日高

GAPイメージ



平成30年4月1日付けで職員の異動がありました

〈 よろしくお願ひします 〉

本所 遠藤 良恵
主任普及指導員

最東端の普及センターから日高山脈を越えて着任しました。軽やかな馬のように、日高農業の魅力に迫りたいです。

本所 後藤 昌人
主査（高付加価値化）

新規作物導入や6次産業化など地域の特色を生かした農畜産物の高付加価値化に向けた取り組みでお役に立てるよう頑張ります。

西部支所 平田 修一
主査（園芸）

8年ぶりに日高に参りました。(以前は新冠町を担当)日々、勉強していきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

本所 小川 伸一
専門普及指導員

引き続き、よろしくお願ひします。

〈 お世話になりました 〉

	役職	氏名	転出先
本所	主任普及指導員	小川 伸一	日高農業改良普及センター 本所（再任用）
本所	主査（高付加価値化）	三上 泰史	網走農業改良普及センター 遠軽支所
本所	専門普及指導員	田隈 篤夫	退職
西部支所	主査（園芸）	佐々木 近義	空知農業改良普及センター 本所

日高農業改良普及センター本所 TEL 0146-42-1489 FAX 0146-42-2521
〒056-0005 日高郡新ひだか町静内こうせい町2丁目2番10号

日高農業改良普及センター日高西部支所 TEL 01457-2-2055 FAX 01457-2-2918
〒055-0107 沙流郡平取町本町105-6

日高農業改良普及センターホームページアドレス <http://www.hidaka.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm>